

令和1年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

学園の基本理念は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ (excellent college) を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。学園は他の服飾系専門学校と一線を画し、独自の価値観と行動様式を持ち、桜丘学園らしさ、固有性を積極的に持つことである。また、教育理念は「学生一人ひとりを大切にし、愛情をもってきめ細やかな指導で、専門知識・技能の習得および人間性豊かな人材を育成する」。教育理念の根本は普遍的なものであるが、学園の教育目的やその目的を達成する人材育成は時代の変化に対応する必要がある。現在ファッション業界のみならず産業界全体にデジタル化の流れが急加速している。ファッション小売業も顧客との接点をリアル店舗、アプリからeコマースに至るまで最適な小売り体験を提供するオムニチャンネル化への進化から、AI（人工知能）を活用したマーケティング、マーチャンダイジング。また、デジタル化されたものがインターネットを介して伝達されるIoT化へと加速度的に変化している。学園に於いてもICT教育を推進することにより、この時代の変化に対応する人材育成が次のステージに向けての最重要タスクである。今後はファッションの分野に留まらず新しい分野の学科を開設することにより、学園の教育の幅を広げ産業界に貢献する教育機関、人材育成を目的とする。

基準2. 学校運営

学園の基本理念・教育理念に基づき、事業年度毎に事業計画を作成し、理事会、評議員会の承認のもと、教職員全体会議で全教職員に周知徹底され、計画的に実践されている。教育事業の根幹は教務部が担い、学校全体のプラットホームは事務部が整える。学校継続の推進力となる学生募集、広報活動は企画部が担当して各部が責任をもち連携して事業にあたる。また学内の行事を学内プロジェクトと位置付け、プロジェクト委員を任命し、校長、教務部長、事務部長を中心にプロジェクトリーダーと連携して事業運営にあたる。カリキュラムの編成に関しては、各教職員、外部講師、業界関係者との情報収集により、業界のニーズに即したカリキュラム編成を実践する。学園組織は年度毎に見直し、実際の学園運営と組織体との整合性のチェックが行われている。各教職員の行動計画や情報提供はインターネット上に公開し、効率よく機能的に運用できる様に管理、提供されている。

基準3. 教育活動

平成28年に導入した選択制カリキュラムも4年が経過。ファッション業界のニーズに合

わせながらカリキュラムの編成を変えてきた。ファッションクリエイト科、ファッションビジネス科と学科別に縦割りになるカリキュラム構成を選択制にすることで全ての学科で横断的に受講できる体制で学生交流や学びの幅を広げることができる。2年生、3年生からの選択であるため、ファッション業界の第一線で活躍している有識者を招聘することにより、高度な授業が展開され学生の満足度の高い。学習の成果である一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定2級、3級対策も充実し、受験合格率も高い。また、今後ますます重要度がますます、イラストレーター、フォトショップ、アパレルCADなどのソフトの習熟度も少人数制での指導により大きな成果を上げている。

基準4. 学修成果

学習の成果を出来るだけ可視化することを目的として学園では必須検定として受験している、一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定3級1次の筆記試験は100%合格したものの、2次の実技試験では合格率が75%と全国平均を下回った。ファッション販売能力検定2級、3級とも合格率が43%と僅かだが全国平均を上回る。検定以外も論理的思考や表現力、説得力など学生個々の能力向上を目的として1年生ではマーチャングライディング、ファッション画、コンピュータワークで成果をプレゼンテーション。2年生、3年生はファッションデザイン、ブランドクリエイションで成果発表を行う。また学内2大コンテストであるFCSファッションコンテスト、FCSプロモーションコンテストで学期末1年間の学習の成果を発表する機会を設けている。就職支援に関しては、大手就職支援企業による専門カウンセラーの就職セミナーを実施して就職活動本格化前に動機付けを行っている。また、1年次の学期末には、学内に企業を招聘し、企業情報、職種情報、働く事の意義などの講義をし、就職活動の事前準備に充てている。校外授業やインターンシップを活用して、実際の企業を訪問し、働く現場を見学、体験する事により、より具体的、現実的に就労の意識を持たせている。

基準5. 学生支援

現在日本では2.6人に1人が奨学金を利用して進学している環境下、当学園においても経済的な不安、負担を感じながら学業とアルバイトを両立し就学している学生が散見される。学業以外の過度なストレスが学業の遅れ、遅刻欠席過多、退学等に発展する恐れがあるため、個々の学生の生活環境を正確に把握することで防止につながる。学園では前期、後期の期初に担任が受け持ち学生に対して時間をかけて個別面談を実施している。この個別面談で学生生活での問題点や学外の生活、家庭環境での問題を早期に把握し、学習の停滞や生活の乱れ、退学などを防ぐ対策を講じている。この個別面談の情報は全ての教職員で個人情報に厳格に管理された上で共有され、全ての教職員が同様の対応が取れるよう整備されている。また、専門学校は職業教育が使命であるため全学生の就職を目指し、就職情報の提供や個別の面談、就職指導を実施して大きな成果を上げている。また、社会人としての意識付けのため

にボランティア活動に参加するなど指導を行っている。その他、学内行事に於いても、学生内で担当の係を決め、学生の自主性を大切に、行事を運営することを心掛け、リーダーシップ、協調性、計画性などを高められるよう指導している。

基準 6. 教育環境

学内に於いては、換気、採光、照明及び保湿等を適切に行い、環境を清潔に保ち学習が実施されている。水質試験検査、消防設備点検など法令を遵守し、実施され学生の安全を確保している。ICT教育を推進する上で学内のインターネット環境の整備。パソコンをノートパソコンに更新することによりすべての教室にWi-Fi環境を整えパソコンを使用した授業を推進している。施設、設備は常にメンテナンスを怠らず清潔に保ち、学習機器も時代のニーズに合った機器に常に更新している。

基準 7. 学生の募集と受入れ

学生募集に於いては、第一に業界理解に力点を置いている。職業人育成の観点から正しく業界を理解することが重要である。そして、学園の教育理念を説明し、多岐にわたる入学制度、カリキュラムの内容など学びの環境の理解を深め出願につなげている。他校との差別化は設備の個人使用度合いや教員からの教授を受ける頻度、密度の高さが高度な知識、技術が習得できる利点であることを丁寧に説明している。ホームページや学校案内では表現できない部分を来校した生徒に説明し、高い来校者出願率を誇っている。入学対象者の進路希望状況を一元管理しデータベース化する事で教職員全員で共有し、学生募集にあたっては学内全教職員で対応できる体制を整えている。

基準 8. 財務

学生納付金収入は安定しているが、もう一段の入学者確保が必要である。人件費は減少傾向にあり、経費も適切に管理されていて予算執行も問題ない。流動資産の金銭信託は含み損が増加傾向にあり、資産が毀損しているので計画的に改善することが必要。学園所在地は再開発地区でもあり、保有資産内容が変わることも想定されるので、情報収集をしっかりと行い今後も慎重に対応したい。

基準 9. 法令等の遵守

警視庁、東京都、千代田区からの情報に関しては、必要に応じて教職員は朝礼及び全体会議、教員会議で伝達され、学生に於いては午前午後のホームルールで伝達されている。学生に対しては法令違反を未然に防ぐため、講習会や冊子の配布を適切に実施している。また、学内で決定された規定に関してはパソコン上の共有フォルダーに保存されいつでも閲覧できる状態である。

基準10. 社会貢献・地域貢献

千代田区生活環境条例に基づき6月に学園全体で千代田区一斉清掃に取り組み近隣の環境美化に貢献している。また、地域の町内会との交流を積極的に行い地域の振興に協力している。ミシンLabo桜丘を開設し、ミシンなど服飾関係の設備を開放し、物造りの楽しさや、洋服のリメイク、リサイクルに対する地域貢献活動を行っている。